



ゆめに向かう『やる気』ゆめをかなえる『本気』何度でもやり直す『根気』

輝け！口石っ子 佐々町立口石小学校 学校便り

令和6年1月9日 63号 文責 校長 岩下裕之介

あけまして、おめでとうございます。
今年「辰年」。学年のまとめをしっかりと行い、よい年にします！

昨年は保護者の皆様をはじめ、地域の皆様には本校教育活動に、ご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も、教職員一同力を合わせて、子どもたちの健やかな成長と地域と共に歩む教育活動を推進して参ります。今後とも皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

さて、今回は3学期の始業式で子どもたちに話した講話を紹介します。

令和6年、辰年という新しい年を迎えました。今の学年も、残り3か月になります。日にちに直すと6年生が49日、1年生～5年生は52日で、今の学年が終わります。とても短い時間ですので、今の学年のまとめをしっかりと、「6年生は中学生になるための、1年生から5年生のみなさんは、上級生になるための、大切な3か月。」という意識をしっかりと、次の学年になるための助走期間にしてほしいと思っています。

そこで、次の学年に自信をもって進むために、全校のみんなで「勉強名人」のお友達を増やして、先生はもちろんのこと、お家の方や地域の方からも、「すごいね！」「さすがは口石小学校の子どもたちだ」と言われる方法について話をします。

1月からの学習は、今の学年のまとめの学習が多くなります。そこで、最初に「自分は勉強名人を目指す！」と心に決めて、テストで100点をとることにこだわってみましょう。そのためには、まず、授業が始まる前に、教科書、ノート、筆箱など、次の時間に必要なものを、自分で準備して、落ち着いた心で授業を迎えます。授業中は、先生が必ず「めあて」を書かれます。みなさんは、その「めあて」を解決するためには、「どうしたらよいのか」を本気で考えてみてください。本気で考えると、「こうしてみたらどうだろう？」というアイデアが浮かんできます。しかし、本気で考えても、アイデアが浮かんでこない場合が当然あります。でも、心配することはありません。そんな時は、友達の意見をどんどん参考にしましょう。良いお手本の友達に感謝し、そのマネをすることは、勉強名人への近道です。

また、「目は心のまど」という言葉があります。アメリカの心理学者メラビアン先生の話によると、人は目から入る情報が55%、耳から入る情報が38%、言葉から入る情報が7%で、目から入る情報が一番多いそうです。これを【メラビアンの法則】というそうです。

そこで、先生や友達と話をする時は、「先生や友達の良いところを見つけよう。」という気持ちで、アイコンタクトを取りながら人の話を聞いて、反応してみましょう。

例えば、授業中だったら、友達の意見を聞いた時、「おおーっ。」「いいね。」「なるほど。」「すごい。」「グッジョブ」と、相手の目を見てにっこり笑顔で言う。休み時間だったら、「ありがとう。」「だいじょうぶ。」「がんばって。」「上手だね。」「助かったよ。」と、相手の目を見てにっこり笑顔で言う。アイコンタクトとあったか言葉を日頃から意識すると、大切な情報だけでなく、相手の気持ちがわかりやすくなるので、人とお話しするのも、勉強するのも楽しくなります。つまり、アイコンタクトは愛コンタクトでもあります。

そして、もう一つ大事なことは、生活と学習のリズムをつくることです。難しい言葉で「習慣」といいます。

例えば、お家に帰ったら、まず

- ・「ただいま」と言ってから、手洗いやうがいをします。
- ・一息ついたら、お家の人に学校であった楽しかったことやがんばったことをお話します。
- ・決まった時間やタイミングで家庭学習に取り組みます。
- ・次の日の準備を自分でします。

- ・決まった時間に寝ます。
- ・ぐっすりねむって起きたら、朝食をしっかり食べます。
- ・「行ってきます」と言って、学校におくれないように登校します。

良い生活習慣と良い学習習慣が身につくと、気持ちよく生活することができます。

以上、勉強名人になるための一つの方法について話をしましたが、一番大切にしたいことは、先生や友達と一緒に、落ち着いた気持ちで楽しく学習することです。来週には町の学力テストがあります。再来週にはなわとび大会があります。そして、このメンバーで学習できるのも残りわずかです。一緒に学校で学習できることに対して、感謝の気持ちを忘れずに、一日一日を大切にしてほしいと思っています。

学校では、3学期は0学期、「まとめ、次の学年への助走期間、感謝の学期にしよう！」をキーワードに、新たな気持ちでスタートさせたいと考えています。

- 1 「すごいね！」「さすがは口石小学校の〇年生！」と言われる学年のまとめ
 - 「勉強名人を目指す！」と心に決めて、テストで100点をとることにこだわる。
 - 1時間1時間の授業を大切に、「やったら出来た！」という経験をさせる。
 - ★ 「佐々っ子ゆめプラン」で生活・学習リズム（習慣）をつくる。
- 2 「ありがとう！」「助かったよ！」という言葉があふれる学級づくり
 - 「心をみがく一日一善」の具体的な姿を子ども自身の言葉で語らせそれを目指す。「目は心の窓」アイコンタクト＝愛コンタクト
「先生や友達の良いところを見つけよう！」という気持ちで対話をし、①「アイコンタクト（愛コンタクト）」②「あったかことば」③「反応」は特に大切に！
 - 落ち着いた学校生活
 - ★ 友達にはやさしい言葉、先生や目上の人には敬語をつかう。
- 3 残り3か月で上級生（中学生）になるという自覚
 - 下級生から「あこがれの気持ち」をもたれる上級生とは？
 - 上級生になるために自分で実行することを決めて、クラスで実践（本気でチャレンジ、自分で分析、クラスで改善）

上級生や本気でがんばっている友達の姿を見て、「自分もそうになりたい！」「この人を見習いたい！」という「あこがれの気持ち」を大切に、感謝の気持ちをもって今の学年のまとめをしっかりと行いたいと考えています。

ご家庭や地域でも、子どもたちが本気でがんばっている姿に気づいたら、「すごいね！」「ありがとう！」「助かったよ！」の言葉をかけてください。そして、全校の子どもたちの参考になる、あるいは、ぜひ紹介したいというエピソード等がありましたら、担任を通じて校長室までお知らせください。

口石小学校では、本気でがんばっている子どもたちを、たくさんの人たちで褒めながら、応援し、さらに伸ばしていこうと考えています。今後とも、子どもたちへの温かな声かけとサポートをどうぞよろしくお願いいたします。

年賀状の寄贈

佐々栄町通り商工協同組合（理事長 西尾 弘毅 氏）と郵便局から、地域への還元事業として役に立てればと、全児童対象に年賀状を寄贈していただきました。「日頃お世話になっている方などに年賀状を書くことで、感謝の気持ちを書く良い機会になることを期待している。」というお言葉をいただきましたので、その意図を子どもたちに伝え、年賀状を書かせていただきました。メールでのやりとりが主流になった最近では、手紙やはがきを出すことがとても少なくなりました。そんな中、相手を思いながら年賀状を書く時間は、子どもたちにとって、とても貴重な機会となりました。ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

